

公立大学法人愛媛県立医療技術大学

**中期目標期間終了時見込業務実績評価書
(令和4年度～令和9年度)**

令和8年8月

愛媛県公立大学法人評価委員会

目 次

I	評価の基本的考え方	-3-
II	全体評価	-4-
III	項目別評価	
	1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	-7-
	2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	-20-
	3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	-25-
	4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	-27-
	5 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	-30-
	【参考】愛媛県公立大学法人評価委員会について	-32-

I 評価の基本的考え方

愛媛県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第78条の2第1項から第3項及び同法改正附則（令和5年法律第58号抄）第3条第3項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「法人」という。）の第3期中期目標期間の終了時に見込まれる業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

各事業年度の評価結果を踏まえつつ、法人の自己点検・評価に基づき、当該中期目標期間終了時見込期間における中期計画の実施状況の調査及び分析を行い、その結果を踏まえて、中期目標期間終了時見込期間における業務実績全体について総合的な評価を行う。なお、評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

1 項目別評価

(1) 法人の自己評価の検証と評価（小項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書の小項目（中期計画の記載事項）ごとに、法人の自己評価の妥当性も含めて総合的に検証し、中期目標の達成状況について、次の4段階で評価を行う。

- Ⅳ：中期計画を上回って実施できる見込み。
- Ⅲ：中期計画を順調に実施できる見込み。
- Ⅱ：中期計画を十分には実施できない見込み。
- Ⅰ：中期計画を実施していない。

(2) 大項目別評価

(1)の小項目別評価の結果を踏まえ、次の大項目ごとに、中期目標の達成状況等を総合的に勘案して、次の5段階により評価するとともに、評価理由を明らかにする。

- S：中期目標の達成において特筆すべきものとなる見込み。（評価委員会が特に認める場合）
- A：中期目標の達成が良好となる見込み。（全てⅣまたはⅢ）
- B：中期目標をおおむね達成できる見込み。（ⅣまたはⅢの割合が90%以上）
- C：中期目標の達成においてやや不十分となる見込み。（ⅣまたはⅢの割合が90%未満）
- D：中期目標の達成において著しく不十分であり、重大な改善事項がある。（評価委員会が特に認める場合）

【大項目】

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
- 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
- 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
- 4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置
- 5 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

2 全体評価

大項目別評価の結果を踏まえ、記述式により総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、業務運営の改善その他の勧告を行う。

Ⅱ 全体評価

1 全体的な状況

愛媛県立医療技術大学は平成16年4月に県直営の4年制大学として開学し、平成22年4月から地方独立行政法人法に基づき愛媛県が設立した「公立大学法人愛媛県立医療技術大学」が設置・運営する大学として、現在に至っている。

大学法人は、愛媛県における保健医療従事者の育成の拠点として、豊かな人間性と倫理観によって培われた広範な視野と深い人間理解の下に、高度の専門的な知識と技術を備えた人材を育成するとともに、地域に開かれた大学として、教育及び研究を推進し、その成果を社会に還元することにより、地域社会における保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的としている。

このことは、法人の定款及び中期目標にも定められており、これを達成することは、法人及び法人が運営する愛媛県立医療技術大学に課せられた使命である。

第3期中期目標期間においても、理事長（学長）のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって、自立かつ弾力的な大学運営を行い、様々な課題に着実に取り組んだ結果、中期目標期間の終了時に見込まれる業務の実績については、「中期目標を達成できる見込みである」と認められる。

<特記事項>

- (1) 国家試験合格率は令和6年度に全職種で目標を達成した一方、未達の年度も見られる。達成年度の有効な取組を着実に継続するとともに、未達要因を踏まえた個別支援の一層の充実を図り、毎年度の確実な達成につなげられたい。
- (2) 就職率は、毎年度100%を達成しており評価する。県内就職率は、令和5年度のみ41.2%と目標である50%に及ばなかった。育成した医療人材が県内で活躍し、地域の保健医療福祉の向上に寄与することは、県立大学としての重要な使命であることから、今後も、行政機関及び保健医療福祉関係機関と連携しつつ、県内就職率の一層の向上に努めていただきたい。
- (3) 数値目標として掲げている国内外の学会発表数及び和文・英文の論文掲載数については、目標達成に向けて順調とは言えない進捗である。今後は、教員の負担軽減を図り研究時間を確保するための取組を検討・実施するよう努められたい。また、次期中期計画では、研究の質向上等の観点を十分踏まえた上で、目標設定を検討いただきたい。
- (4) 砥部町のふるさと納税における寄附金の使途メニューへ「医療技術大学への支援」を新設するとともに、伊予銀行・愛媛銀行と遺贈寄附に関する協定を締結するなど、自己収入の確保に向けた新たな取組を着実に推進した点を高く評価する。今後は、これらの取組を一過性に終わらせないよう、寄附者層の拡大やリピーター確保に向けた広報の強化等に努めていただきたい。

その他小規模校の強みを生かした少人数教育や学生支援、施設設備の修繕等による修学環境の整備など様々な分野に積極的に取り組んでいると認められる。各大項目別評価については、各項目の最後に記載する。

2 業務運営の改善等に関する事項

特に改善勧告を行う必要のある事項はない。

【中期計画における数値目標の達成状況】

○国家試験合格率：100％ (％)

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
看護師	100	98.6	100	98.6
保健師	100	100	100	92.2
助産師	92.3	100	100	100
臨床検査技師	88.0	92.9	100	96.3

○学生の授業評価：5段階で各項目4以上

年度		R 4	R 5	R 6	R 7
講義・演習・ 学内実習	授業のテーマや内容に興味・関心をもてた	4.58	4.58	4.65	4.65
	自分なりに学習課題に取り組み、達成できた	4.64	4.60	4.61	4.60
	私語や途中退席はなく、熱心に授業に臨んだ	4.76	4.76	4.72	4.69
	教員は、学生の理解度を確保するための配慮を払いながら授業を進めていた	4.55	4.55	4.77	4.76
	教員は授業の内容について、学生の理解を深めるように説明をしていた	4.65	4.61	4.64	4.65
臨地実習	総合的にみて実習目標を達成できる実習であった	4.74	4.77	4.71	4.76
	当該領域に対する興味・関心が深まる実習内容であった	4.76	4.74	4.72	4.74

○大学院修了後2年以内の研究成果学会発表者数：80％以上 (％)

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
発表者割合	66.7	80.0	100	85.7

○一般選抜試験前期日程出願倍率：3倍以上を維持する

年度		R 4	R 5	R 6	R 7
一般前期		2.8倍	3.7倍	1.9倍	3.4倍
内訳	看護学科	2.9倍	3.4倍	1.8倍	3.6倍
	臨床検査学科	2.6倍	4.4倍	2.0倍	3.1倍

○オープンキャンパスの参加者数：毎年600名を確保する

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
参加者数	647名	856名	639名	1,041名

○就職決定率（就職者数/就職希望者）：100％（％）

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
就職決定率	100	100	100	100

○県内就職率（県内就職者数／就職者数）：毎年度50％を確保し、最終年度（令和9年度）までに60％を目指す。※学部生（専攻科を含む）卒業生対象（％）

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
県内就職率	63.8	41.2	65.6	60.6

○国内外の学会発表数：6年間で500件

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
学会発表数	55件	66件	75件	71件
累計	55件	121件	196件	268件

○和文・英文の論文掲載数：6年間で300件

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
論文掲載数	30件	46件	27件	22件
累計	30件	76件	103件	125件

○文部科学省・日本学術振興会の科学研究費補助金等教員の申請率:80％以上、採択件数:新規・継続合わせて6年間で60件

年度			R 4	R 5	R 6	R 7
申請率			74. 5%	83. 7%	84. 4%	88. 6%
採択件数	当該年度採択件数		24件	28件	28件	28件
	内訳	新規採択	5件	5件	6件	4件
		継続採択	19件	23件	22件	24件
	累計		24件	52件	80件	108件

○県内保健医療職の研修会への講師派遣：年間160件以上

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
講師派遣件数	188件	167件	176件	194件

○公開講座、出張講座等の開催回数：年間12回以上

年度		R 4	R 5	R 6	R 7
開催回数		12回	12回	12回	14回
内訳	専門職対象講座	6回	7回	7回	7回
	一般・学生対象講座	6回	5回	5回	7回

○事務局職員の超過勤務時間：最終年度までに25％削減（H30～R2年度の一人当たりの月平均超過勤務時間33.08時間を基準とする）

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
超過勤務時間	32.03時間	17.00時間	31.60時間	31.07時間
基準時間との比較	3.2％減	48.6％減	4.5％減	6.1％減

○紙の購入量：最終年度までに50％削減（R2年度実績1,435千枚を基準とする）

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
購入枚数	1,472千枚	1,546千枚	1,369千枚	1,010千枚
基準枚数との比較	2.6％増	7.7％増	4.6％減	29.6％減

Ⅲ 項目別

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

項 目	1 教育						
中期目標	(1) 目指すべき教育の方向 ア 学部（専攻科含む） 確かな自己教育力を基盤に、豊かな人間性と科学的根拠に裏打ちされた実践力を身につけた保健医療専門職を育成する。 イ 大学院 保健医療の分野に関してより高度で専門的な学術理論及び実践能力を身につけ、高度専門職業人として総合的な判断能力・指導力・教育力等を発揮し、地域医療に貢献できる人材を育成する。 (2) 教育課程（カリキュラム）の充実・強化 教育理念・教育目標の実現に向け、保健医療従事者としての基盤となる能力を効果的、効率的に修得でき、かつ自己教育力が高まる教育方法を検討し、実践する。 (3) 教育・学修環境の整備・充実 質の高い学修、実習のための良好な施設、設備の提供と、自主学修意欲を喚起するための演習室、図書館等の整備を進めるとともに、教員の更なる教育力向上を図り、学生の教育・学修環境の充実に取り組む。 (4) 学生の受入れ 大学の教育理念・教育目標に基づき、アドミッションポリシー（入学者受入方針）や入学者の選抜方法を適切に設定し、同ポリシーを理解した学生の確保を図る。 また、県内の高校との連携活動を推進し、地域の保健医療に貢献する大学が求める学生像や教育内容等を積極的に情報発信する。						
第3期中期計画		第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み		ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
					自己評価	委員会評価	
(1) 目指すべき教育の方向							
ア 学部(専攻科含む)							
① 教育理念・目標と教育課程の連関に関する教育実施、シラバスの内容充実や提示方法を改善する。		・大学の教育理念や3つのポリシー（DP・CP・AP）の整合性を図り、カリキュラムとの連関を明確化 ・電子シラバスを完全導入し、各科目とDPの関連を明示して学生の利便性と教育の可視化を大きく向上させた。 ・DPに基づく学習成果を評価できるような5段階評価のルーブリック評価の項目を検討 【各科目とDPの関連を明示して学生の利便性と教育の可視化を大きく向上させたことにより、計画を上回って実施できる見込み】		2	Ⅳ	Ⅳ	
② オンライン教育の基本方針及びガイドラインを策定するとともに、学生のオンライン教育環境を順次整備する。		・オンライン学習ツール活用による学習支援を実施し、活用状況を調査した。 ・大学サーバーのクラウド化への移行や学内の教育用Wi-Fi設備の強化を実施し、安定した通信インフラを構築した他DX管理Ipad75台を導入 ・今後は調査結果を踏まえ、オンライン授業の基本方針・ガイドラインの策定を進める見込みである。 【計画を順調に実施できる見込みではあるが、オンライン教育の基本方針等の策定を加速化する必要がある。】		1	Ⅲ	Ⅲ	

第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
③ アクティブ・ラーニング（注1）等による自己教育力の向上、eラーニングの活用を拡充する。 （注1）教員による一方向の講義形式ではなく、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた学修法	・E-study【学習管理システム（LMS）】を通じたeラーニングの普及・拡充を図った。 ・大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向＝「ジェネリックスキル」を育成するため、PROGテストを実施し、自己教育力向上を図った。 ・約50本に及ぶ国試対策用デジタル教材を新規に作成 ・未経験技術の習得に加え、国試模試低得点項目の強化対策として、ナースングスキル（看護技術に関するe-learning教材）での学習を実施 【計画は順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
④ 技術教育の強化、VR教材等を活用する教育方法の検討、少人数教育を実施する。	・看護学科では、教育補助者の配置により少人数教育を実施し、実技テスト合格率100%を維持 ・未経験技術の習得のため、ナースングスキルでの学習を実施 ・臨床検査学科では臨地実習での到達度評価実施や生理検査分野及び医用工学分野でのVR教材活用を進めた。 【計画は順調に実施できる見込み】	2	Ⅲ	Ⅲ	国家試験合格率は令和6年度に全職種で目標を達成した一方、未達の年度も見られる。達成年度の有効な取組を着実に継続するとともに、未達要因を踏まえた個別支援の一層の充実を図り、毎年度の確実な達成につなげられたい。
⑤ 臨床実習でなければ学べない教育内容の明確化及び実習方法の改善、臨地実習施設との教育方法の連携を図る。	・実習目標と期間中の実習計画の見直しやDX機器の活用等により、臨地における学習と学内における学習のあり方を再検討 ・本学教員と臨地実習施設の連絡体制を密に構築し、実習目標や指導方針に関する認識の共有を図った。 【計画は順調に実施できる見込み】	2	Ⅲ	Ⅲ	
⑥ 国際交流教育の充実によりグローバルな視点涵養の成果向上を図る。	・高雄医学大学（台湾）への短期海外研修を実施するとともに、高雄医学大学からも研修生を受け入れ、学生同士の交流を図った。 【計画は順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
⑦ 学生による授業評価システムの改善を行う。	・E-studyを活用して授業評価アンケートを実施し、高い回収率を維持 ・教員はアンケート結果をもとに授業内容や指導方法の自己点検を行うとともに、次年度のシラバスに反映 【計画は順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

第3期中期計画	第3期中期計画中の実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
イ 大学院					
① リーダー的役割を果たすための資質向上を図る教育内容の改善を行う。	【看護学専攻】 ・認定看護管理者養成プログラム設置に向けた具体的検討を実施 【医療技術科学専攻】 ・感染症専門検査技師養成プログラム及び細胞診検査学習支援プログラムを設置 【リーダー的役割を果たすための養成プログラムを設置する等、計画を上回って実施できる見込み】	1	Ⅳ	Ⅳ	
② 関係職種間の相互理解の強化と協働活動できる力を育成する。	・両専攻の学生が共通科目や合同の演習等を通じて、看護師・保健師・助産師・臨床検査技師の学生が相互理解を図った。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
③ わかりやすい説明ができる論理的思考力の強化方法の充実を図る。	・各授業科目において学生によるプレゼンテーションやディスカッションを中心に進める機会を継続的に実施 ・特別研究の各発表会を対面で開催し、活発な質疑応答を通じて説明力を高めた。 ・D P 達成度アンケートでも論理的思考力に関する自己評価は向上傾向を示した。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
④ 保健医療に関する多角的な見識を育成する。	・「保健医療システム論」において、多角的な視点から保健医療の課題を取り上げる授業を展開 ・愛媛県の地域保健医療計画と各自の活動・研究との関連を考察し、プレゼンテーションと意見交換を行った。 ・D P 達成度アンケートにおける「保健医療分野に関して広い見識を身につけている」の項目で、「概ね達成した」以上の自己評価であった。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
⑤ 研究の推進による現象の解明と問題解決能力の獲得に向けた教育の充実を図る。	・各授業科目で文献検索、精読、クリティーク（批判的文献検討）を取り入れ、論文を的確に読み込む力の育成と研究計画への反映支援に努めた。 ・D P 達成度アンケートにおける「科学的に追求していく方法と態度／技術を身につけている」の項目で、「概ね達成した」以上の自己評価であった。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

第3期中期計画	第3期中期計画中の実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
(2) 教育課程（カリキュラム）の充実・強化					
ア 学部(専攻科含む)					
① カリキュラム（看護：令和2年より改正。臨床：令和4年より改正）内容の評価と課題の明確化及び改善案を策定する。	・D P 達成度アンケート結果を活用したシラバス評価を実施し、シラバスの改善を図った。 ・シラバスには、D P との関連を踏まえて「授業目的」「到達目標」「授業計画」を記載するよう改善を図った。 ・本学カリキュラムと日本看護系大学協議会による看護教育モデルコアカリキュラム（令和6年度改訂版）との整合性を確認しコンピテンシー基盤型カリキュラムへの移行を検討している。 ・学習成果の可視化に向けてDPのルーブリック評価の導入を検討している。 【学生の授業評価が高得点になるなど計画を上回って実施できる見込み】	1	Ⅳ	Ⅳ	
② カリキュラムに関わる組織体制の明確化と効果的連携方策を確立する。	・教学マネジメント委員会の規程や年間フローを整備し役割を明確化した。 ・各学科・専攻及び専攻科が、「自己点検評価報告書」を作成し、F D 委員会が根拠データを取りまとめ分析、教学マネジメント委員会が総括評価するという連携体制を確立 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
③ 学生に対するカリキュラム編成の意義や意図を周知する。	・カリキュラムマップ・ツリーを手引きやHPに掲載 ・初回授業時に、D P 関連説明を実施 ・図書館に「シラバス参考図書コーナー」を設置し、シラバス参考図書一覧を確認できるQRコードを掲示 【学生の授業評価が高得点になるなど計画を上回って実施できる見込み】	1	Ⅳ	Ⅳ	
イ 大学院					
① カリキュラム（令和3年度より改正）内容の評価と課題の明確化及び改善案を策定する。	・D P 達成度アンケート結果を活用したシラバス評価を実施した結果、満足度は高く、改善の必要はなかった。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
② 学生に対するカリキュラム編成の意義や意図を周知する。	・カリキュラムマップ・ツリーを手引きやHPに掲載 ・初回授業時に、D P 関連説明を実施 ・図書館に「シラバス参考図書コーナー」を設置し、シラバス参考図書一覧を確認できるQRコードを掲示 ・図書館のシラバス参考図書を拡充 【学生の授業評価が高得点になるなど計画を上回って実施できる見込み】	1	Ⅳ	Ⅳ	

第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
③ 研究指導計画の明確化と指導方法の改善案を策定する。	・修士論文作成の手引き「研究指導計画」及び「スケジュール」を追加し、明確化を図った。 ・遠方の履修者や、就業との両立に配慮し、オンラインでの科目開講や研究指導を積極的に進める改善策を講じた。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
④ 修了後の研究成果公表に向けた在学中からの支援計画の充実を図る。	・「修士論文コーナー」を図書館に設置し、修士論文一覧を確認できるQRコードを掲示した。 ・修了生の一部は、研究生として在籍し、継続的な研究活動を支援した。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
⑤ 修了生の活動状況調査を実施する。	・令和4、5年度に、既修了生アンケートを実施し、約9割が教育・管理業務に従事している実績を把握 ・今後は、既修了生アンケートを専攻別に実施し、各専攻及び教学マネジメント委員会で分析することとした。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

第3期中期計画	第3期中期計画中の実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
(3) 教育・学修環境の整備・充実					
① 良好な学修環境を維持・確保するため、講義室等の施設設備を計画的に整備・充実させるとともにアクティブ・ラーニングスペースの拡充を図る。	・アクティブラーニングスペースの確保に向け、自習室の拡充及び別館フリースペースの整備を実施 ・全館LED化がR8年度末に完成予定 【計画を順調に実施できる見込みであるが、計画的な整備を行う必要があり、財源の確保に向けて引き続き設置者と連携した取組みが不可欠である。】	2	Ⅲ	Ⅲ	
② IT環境の整備とデジタルコンテンツを活用した教育の推進を図る。	・サーバーのクラウド移行 ・ノートパソコン必携化 ・Microsoft Officeの無償提供 ・E-study【学習管理システム（LMS）】を通じたeラーニングの普及・拡充 ・SimCapture（医療シュミレーショントレーニング）やMedi-EYE（教育用電子カルテ）を活用 【IT環境の整備に努めており、計画を上回って実施できる見込みであるが、更なる教育環境の充実に向けて財源の確保は課題であり、引き続き設置者との連携が不可欠である。】	1	Ⅳ	Ⅳ	
③ デジタル専門図書について、利用者の要望をふまえて導入を図る。	・各講座の推薦や要望により、デジタル専門図書を計画的に購入 ・助産学専攻科において、電子教科書を導入 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
④ 教員のデジタルリテラシー（注2）等向上のための方法を策定する。 （注2） ・教員のデジタルリテラシー：デジタル情報や通信を教育に活かすための技術	・EBSCO（図書館を対象とした学術データベースサービス）講習会をオンラインで開催し、データベースの機能や利用法や、ハゲタカジャーナル（粗悪学術誌）に関する情報を提供 ・全教職員を対象に情報セキュリティリテラシーのセルフラーニング研修を実施 ・学内のDX推進及び情報共有を目的として、教職員が主体的に参加できる「GDP（Good Digital Practice）カフェ」を実施 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

第3期中期計画	第3期中期計画中の実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
(4) 学生の受入れ					
① アドミッションポリシー（入学者受入方針）に基づき、適切な入試方法を選択し、公正に運営する。	・新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じた感染対策と、追試験や振替受験による受験機会の確保を図った。 ・一般入試のほか推薦入試や社会人特別選抜など多様な選抜試験を実施 ・大学入試センター試験に加え、小論文・面接（集団・個人）・調査書を活用し、受験者の能力及び適正等を多面的・総合的に評価 ・配点及び選抜方法等を適宜募集要項で公表 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
② 入試制度の見直しや受験動向を踏まえて、選抜方法を点検・評価し、県内をはじめ多様な学生の確保を図る。	・入試評価委員会において、令和8年度入試より、 ①学部・大学院のアドミッションポリシーの修正 ②学校選抜型推薦入試（看護学科）の募集人員を10名増員し、前期を10人減員 ③大学院の受験資格や入試方法の変更 を決定し、実施した。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
③ 受験生確保につなげるため、大学の教育研究活動や入試情報について、積極的に広報活動に努めるとともに、出張講義などの県内高校との連携活動を強化し、本学の求める学生像と教育内容の浸透を図る。	・高校生と保護者等にオープンキャンパスを開催するほか、県内の高等学校等の進路指導担当教諭を対象に大学説明会を開催 ・県内の各高校へガイダンス及び出張講義を実施、本学の求める学生像と教育内容の浸透に尽力 ・HPの充実 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
④ 大学院の受験者を確保するため、県内保健医療機関等や卒業生・在学生に対し、大学院における学修内容に関する情報発信を積極的に行うとともに、社会人学生等の状況に合わせた柔軟な履修方法について、その浸透を図る。	・広報誌の大学院紹介を充実させるとともに、県内主要病院に配布 ・同窓会誌で大学院の紹介と受験の呼びかけ ・大学院案内を新たに作成し、デジタルパンフレットとしてHPへ掲載 ・大学院オープンキャンパスの実施 ・オンライン講義の導入 【計画を順調に実施できる見込み】	2	Ⅲ	Ⅲ	

項 目	2 学生支援				
中期目標	学生が学修に専念し、安定した学生生活を送るために必要な修学支援、生活支援の制度について、社会情勢等に即応した適切な対応を図る。就職・進路支援について、学生の希望に沿った支援に加え、県内就職に向けた情報発信や卒業生へのUターン支援に取り組む。				
第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
① 学生の主体的学修の促進のための支援や相談体制を維持するとともに、学修の継続に困難を抱える学生や特別な配慮を要する学生を適切に支援する。授業料の減免や奨学金等による経済的支援の継続・拡充に努める。また、学生がグローバルな視点を養えるよう国際交流推進を支援する。	・E-study【学習管理システム（LMS）】を通じたeラーニングの普及・拡充 ・外部カウンセラーや学生委員、クラス顧問による学生相談の実施 ・「学生カード」を作成し、学習状況や修学上必要な配慮等に関する情報共有を図った。 ・日本学生支援機構奨学金をはじめとする各種奨学金や多子世帯学生の入学料及び授業料免除の実施 ・ふるさと納税寄附金を活用した臨地実習宿泊費用を助成 ・台湾高雄医学大学との相互派遣交流の実施 【寄附金等自主財源の確保と活用により、計画を上回って実施できる見込み】	1	Ⅳ	Ⅳ	
② 学生が心身ともに健やかに、安全、安心で充実した学生生活を送れるよう支援する。健康管理体制の強化に努めるとともに、必要な学生生活に関する相談体制を維持する。交通安全対策や犯罪被害対策など、学生生活の安全面の支援を行う。サークル活動、自治会活動、課外活動、ボランティア活動等、自主的な活動を支援する。	・内科健診の実施や感染予防マニュアルを更新 ・交通安全教室やゲートキーパー養成講座、犯罪被害防止教室を実施 ・防犯カメラの設置 ・外部カウンセラーや学生委員、クラス顧問による学生相談の実施、学生専用HP「学生相談フォーム」からの相談受付 ・サークルや自治会に対して、後援会より助成 【健康管理体制の強化や学生生活の安全面の支援に努めるなど計画を上回って実施できる見込み】	1	Ⅳ	Ⅳ	
③ 学生の希望に沿った就職・進学の達成のための相談・支援体制を維持し、学生のニーズに適した就職セミナーや卒業生との交流等により、就職・進学に関する情報の充実を図るとともに、きめ細やかな個別指導・助言体制を強化する。県内出身学生の確保や県内就職率の向上を図るため、愛媛県、県内高校及び関係医療機関などと密接に連携し、本学や県内医療機関の魅力の紹介に引き続き努め、県内就職促進事業の拡充を図る。また、県外に出た卒業生等の愛媛県へのUターン支援に取り組む。	・進路セミナーの実施や就職担当クラス顧問の設置と個別指導 ・学生専用HPへ就職・進学情報を随時提供 ・ホームカミングデー等を通じ在学生・卒業生の交流と支援を強化 ・県内医療機関のインターンシップや施設見学、就職説明会等の情報提供 ・既卒者向けの県内の医療機関の求人情報のHP掲載 【計画は順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	県立大学の重要な使命として、行政機関、保健医療福祉関係機関と連携しながら、引き続き県内就職率の向上に努められたい。

項 目	3 研究				
中期目標	(1) 研究水準の向上と成果の還元 保健医療福祉の分野に関する基礎的な研究に加え、研究の成果を広く社会に還元でき、国際社会にも通用する学術的研究成果の産出に向け、教員の研究能力の維持・向上に向けた研鑽(さん)の機会を確保するとともに、組織的に研究水準の向上に取り組む。 (2) 研究活動の活性化・適正化 社会の要請に応える多様な研究成果を産出するため、学内外の競争的研究資金の確保や保健医療福祉現場との共同研究の充実に積極的に取り組むとともに、学際的な研究活動の推進を通して、組織的に研究活動の活性化を図る。 また、適正な研究活動を継続して行うため、研究倫理の徹底した遵守と倫理審査体制の整備を図る。				
	第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況 自己評価 委員会評価	評価委員会コメント
(1) 研究水準の向上と成果の還元					
① 保健医療福祉分野の国際的な動向を視野に入れ、各専門領域で独創的・先駆的研究に取り組み、国内外の学会での学術的交流や学術雑誌への積極的公表を推進する	・ 講座研究費、科研費を活用した学術交流の促進 ・ 臨床検査学科美間教授の共同研究成果が「ネイチャー・コミュニケーションズ」に掲載 【計画を順調に実施できる見込み】		1	Ⅲ	Ⅱ 数値目標として掲げている国内外の学会発表数及び和文・英文の論文掲載数については、目標達成に向けて順調とは言えない進捗であることから「順調に実施できる見込み」とは言えず、法人自己評価を一段階引き下げ、Ⅱ評価とする。今後は、教員の負担軽減を図り、研究時間を確保するための取組について検討の上、実施に努められたい。また、次期中期計画では、研究の質向上等の観点を十分踏まえた上で、目標設定を検討いただきたい。
② 研究の成果を大学ホームページや広報誌、公開講座等において積極的に発信するとともに、活用の促進を図る。	・ 大学HPに各教員の最新の研究成果を掲載 ・ 思春期保健に関わる医療従事者や小・中・高等学校の教諭及び養護教諭を対象に教員が作成した「性教育パッケージ」を配布 ・ 県内医療関係者を対象として、「多文化共生時代の医療コミュニケーション」セミナーを開講した。その研究成果を報告書冊子として発行し、県内各図書館へ配布 【計画を順調に実施できる見込み】		1	Ⅲ	Ⅲ

第3期中期計画	第3期中期計画中の実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
(2) 研究活動の活性化・適正化					
① 研究活動の活性化に向けた学内研究費の確保と科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得を図る。	・科学研究費補助金の申請説明動画や資料を学内で共有 ・公立大学協会主催の科研費獲得研修会を活用 ・科研費獲得のため、大学独自の「教育・研究助成費」を実施し、若手教員の支援を充実 ・科研費補助金の申請率は令和7年度88.6%と増加、外部資金獲得競争が激化するなか、令和4年度から新規獲得件数は4～6件と目標3件以上を達成。新規及び継続を合わせた採択件数は4年間で106件にも上っている。 【計画を順調に実施できる見込み】	2	Ⅲ	Ⅲ	
② 保健医療福祉の向上に資するため、地域や他大学等との共同研究や学問領域を越えた学際的研究を積極的に推進する。	・新居浜市との共同研究として、働く世代の健康プログラム事業の企画から効果測定・分析を行い、市や国へ報告書を提出 ・鬼北町と共同で特定健診等に合わせたナトリウム・カリウム比測定結果のデータベース構築と分析を実施し、結果を町と共有 ・愛媛県「若手看護職員確保促進事業」の受託業務において、看護師の確保・県内定着に向けた報告書を作成 ・県中予地方局「eスポーツ地域生きがいづくり推進事業」の事業前後における、心理状態、フレイル、身体機能等を測定し、eスポーツを導入した通いの場への参加状況との関連を分析した上、報告書を提出 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
③ 適正な研究活動を継続して行うため、研究倫理審査の迅速化に向けたシステムの構築を図る。	・迅速審査基準の明確化 ・利益相反マネジメントの指針と規程を策定 ・APRIN（一般財団法人公正研究推進協会）による倫理研修を全教員が受講 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

項 目	4 社会貢献							
中期目標	(1) 県内保健医療福祉職への支援 県内保健医療福祉職の資質向上と協働に向け、関係職種間の交流や人材育成のための諸事業を推進する。							
	(2) 地域住民との交流と支援 「地域に開かれた大学」を目指し、学生や教職員と地域住民との交流の場を提供するとともに、健康づくりのための学習機会や研究成果を提供する。							
第3期中期計画		第2期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み			ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
						自己評価	委員会評価	
(1) 県内保健医療福祉職への支援								
① 地域における保健医療福祉分野の課題解決に向け、地域交流センターが中心となって県内関係機関の連携を強化するための機会を確保し、多職種間で交流する機会を増やす。		・「思春期保健スキルアップ研修会」、「愛媛県アルコール健康障害対策関係者会議」、「多文化共生セミナー」、「ゲートキーパー養成講座」、「保健師の多様な働き方セミナー」等を開催 【計画を順調に実施できる見込み】			1	Ⅲ	Ⅲ	
② 県内の保健医療福祉関係職者が、個々のキャリアを開発する機会を確保すると共に、その内容の充実を図る。		・看護職員養成者を対象とする看護教員継続教育研修会の実施 ・臨床検査技師実践セミナーを実施 ・看護職や臨床検査技師等専門職からの研究・研修・データ分析・検査技術など個別相談に対して、各教員が専門性を活かして生かして支援 ・県内看護師の研究相談に応じる「臨床看護研究相談室」の設置 ・コロナ禍における保健所やワクチン接種会場への教員派遣等、緊急支援を実施 【計画を順調に実施できる見込み】			1	Ⅲ	Ⅲ	
(2) 地域住民との交流と支援								
① 地域に開かれた大学を目指し、学生を中心に、大学教職員と地域住民との交流する機会を増やす。		・「健康フェスタ」や「ねんりんピック愛媛のえひめ2023」、「砥部町立麻生小学校「校区探検」」、「広田こどもあそび広場「科学教室」」、「砥部町子育てフェスタ」に多くの学生がボランティア等として協力 ・「高校生生体機能研究プログラム」、「子ども科学教室」の実施 ・砥部町住民の大学祭への参加、新入生との交流会、 【計画を順調に実施できる見込み】			1	Ⅲ	Ⅲ	
② 地域住民に対し、健康増進に向けて大学の施設・設備が使用できることを広報し、活用を促進する。		・HPへの掲載や砥部町への広報に加え、麻生地区福祉活動推進懇談会に参加し、広報を行った。 ・図書館や学食の一般開放 ・砥部町主催の「ストレッチ教室」や「びよびよ広場」に加え、愛媛県臨床検査技師会総会、愛媛県助産師会主催の研修会会場としても活用された。 【計画を順調に実施できる見込み】			1	Ⅲ	Ⅲ	

第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
③ 地域住民の健康づくりに資するため、本学の研究成果を発信する特別講演や、大学における教育活動の一部を地域住民や学生保護者、卒業生にも公開し、参加を推奨すると共に、図書館等の施設利用を推進する。	・一般住民向け特別講演を毎年2回実施 ・図書館では、地域住民にも興味を持たれるような企画展示を実施するとともに、HP・SNS等による情報発信に努めた。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

特 記 事 項	備 考
なし	

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	構成する小項目別評価の集計結果	自己評価	委員会評価	Ⅳ又はⅢの構成割合
	Ⅳ：中期計画を上回って実施できる見込み	9	9	97.9%
	Ⅲ：中期計画を順調に実施できる見込み	38	37	
	Ⅱ：中期計画を十分には実施できない見込み		1	
	Ⅰ：中期計画を実施していない			

大項目別評価	評価委員会評価	
	5段階評価	コメント
第 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	B	
1 教育 ・国家試験合格率は令和 6 年度に全職種で目標を達成した一方、未達の年度も見られる。達成年度の有効な取組を着実に継続するとともに、未達要因を踏まえた個別支援の一層の充実を図り、毎年度の確実な達成につなげられたい。 ・一般選抜試験（前期）における出願倍率 3 倍以上を維持するという目標については、高校教諭を対象とした説明会の継続実施や、対面・Web 併用のオープンキャンパスの実施などの取組を着実に進めているものの、年度によっては 3 倍以上を達成できていない年度（令和 4 年度、令和 6 年度）もあり、達成状況にばらつきが見られる。今後、少子化の進行により受験生の確保が一層困難となることが見込まれることから、より効果的な広報に努められたい。 ・なお、受験生確保に向けた取組の一つであるオープンキャンパスについては、参加者数を毎年 600 名確保するという目標を達成しており、評価できる。 ・そのほかについては、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体として順調な進捗状況にあると評価する。 2 学生支援 ・小規模校の特色を生かした学習や生活、就職・進学にかかる手厚い学生支援体制が取られており、毎年度就職希望者の 100% が就職できている。 ・県内就職率は、令和 5 年度に 41.2% と目標である 50% に届かなかったものの、当該年度を除く各年度においては目標を達成している。これは、進路セミナーの実施や就職担当クラス顧問の設置による個別指導、ホームカミングデー等を通じた在学生と卒業生の交流機会の提供といった大学による県内就職に向けた支援の成果と評価できる。加えて、看護学科における学校推薦型選抜枠の募集人員増員など、県内出身学生の確保にも重点的に取り組んでいる。育成した医療人材が県内で活躍し、地域の保健医療福祉の向上に寄与することは、県立大学としての重要な使命であることから、今後も、行政機関及び保健医療福祉関係機関と連携しつつ、県内就職率の一層の向上に努めていただきたい。 ・そのほかについても、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体として順調な進捗状況にあると評価する。 3 研究 ・科学研究費補助金の獲得支援に努め、同補助金の申請率について初年度（令和 4 年度）を除いて、目標の 80% 以上を達成している。また、採択件数についても、6 年間で 60 件という目標を早期に達成しており、評価できる。 ・数値目標として掲げている国内外の学会発表数及び和文・英文の論文掲載数については、目標達成に向けて順調とは言えない進捗である。今後は、教員の負担軽減を図り研究時間を確保するための取組を検討・実施するよう努められたい。また、次期中期計画では、研究の質向上等の観点を十分踏まえた上で、目標設定を検討いただきたい。 ・そのほかについても、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体としておおむね順調な進捗状況にあると評価する。 4 社会貢献 ・県内保健福祉医療職のキャリア支援に向け、研修会やセミナー等を継続的に実施している。また、講師派遣等の地域貢献活動については、毎年、目標の 160 件以上を達成しており、評価できる。 ・「砥部町子育てフェスタ」など、地域住民と交流する機会に学生が主体的に参画するとともに、地域交流センターを中心に地域住民向けの研修会等を実施するなど、「地域に開かれた大学」に向けた取組を着実に推進していることを評価する。 ・そのほかについても、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体として順調な進捗状況にあると評価する。		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

項 目	1 運営体制							
中期目標	（１）理事長を中心とする組織体制の強化 第２期中期目標期間中に充実させた組織体制を更に発展させ、理事長（学長）が、法人運営及び大学の教育研究の中心として、強いリーダーシップを発揮し迅速に責任ある意思決定を行うとともに、内部統制等のマネジメント機能を充実させることにより、主体的かつ組織的な運営を行う体制を強化する。 （２）開かれた大学づくり 大学運営に外部有識者等を登用するほか、学生や保護者の意見を幅広く聴取して大学運営に反映させ、開かれた大学づくりを推進する。 （３）地域や社会に貢献する大学づくり 大学の強みや特色を生かした医療福祉分野をはじめ、地域や社会への貢献活動を拡充するため、県や市町との協働事業の実施、大学間連携や高・大連携による相乗・補完的な活動の展開などに意欲的に取り組み、公立大学の役割を発揮するとともに、大学の教育研究力の強化につなげる。							
第３期中期計画		第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み			ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
						自己評価	委員会評価	
（１）理事長を中心とする組織体制の強化								
① 理事長のリーダーシップ発揮のため、理事会等の法人組織において、透明性確保、経営効率化及び教育研究の活性化を進めるとともに、大学運営組織について、多様化する課題への迅速な対応に向けて、学長の補佐体制の強化や各種委員会等の再編などの見直しを図る。		・法人組織における理事会、経営審議会、教育研究審議会の適正な実施 ・大学運営に関する企画立案機能を強化するため、「運営調整会議」を「運営戦略会議」に改称。 ・大学の諸課題に迅速に対応するため、学長の特命事項を処理する学長補佐を設置（R8年に学長補佐が学長就任に伴い現在空白） ・教育に関する内部質保証を担う体制として、教学マネジメント委員会を新設 ・コロナ禍において策定した学内の新型コロナウイルス感染症に係る基本方針・BCPに基づく感染症対策の徹底と教育DXの推進により教育体制を維持 【計画を順調に実施できる見込み】			1	Ⅲ	Ⅲ	
② 理事長を中心とした大学マネジメント機能充実のため、本学版のガバナンスコード（注３）及び内部統制システム（注４）について、規程の整備と継続的な運用体制の構築を進める。 （注３） ・ガバナンスコード：大学組織及び運営方法等に関する指針 （注４） ・内部統制システム：関係法令に適合した職務執行、適正な業務執行を確保する体制のことで次の４項目を目的とする。 ○業務の有効性・効率性の追求 ○コンプライアンスの確保 ○財務報告等の信頼性の確保 ○資産の保全・活用		・「ガバナンス・コード」を策定 ・「内部統制に関する規程」を策定し、日常モニタリングや各段階でのチェック体制が機能していることを理事会へ報告し、監事監査でも適正性が確認された。 【計画を順調に実施できる見込み】			1	Ⅲ	Ⅲ	

第3期中期計画	第3期中期計画中の実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
(2) 開かれた大学づくり					
学外の有識者や専門家を理事や委員に登用し、外部の意見・提案を取り入れるとともに、学生等の学内の声を積極的に反映し、開かれた大学づくりを進める。	・学外理事2名の任命 ・経営審議会、教育研究審議会、研究倫理委員会の外部委員の活用 ・社会保険労務士等の活用 ・学生と大学との意見交換会の実施や保護者アンケートの実施 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
(3) 地域や社会に貢献する大学づくり					
① 地域に貢献する大学をアピールするため、県内の自治体、大学、高等学校等との間で、情報交換や協働事業の実施等を展開するとともに連携協定の締結について前向きに取り組み、これらの成果を積極的に発信する。	・コロナ禍には、保健所等へ医療職を派遣 ・愛媛県臨床検査技師会（R4）や愛媛県総合保健協会（R5）、愛媛大学（R5）と包括連携協定を締結 ・県内高等学校からの要請に応じて、課題研究指導講師として派遣するとともに、カリキュラム編成協力要請に応じた。 ・「えひめ高校生生体機能研究プログラム」や「高校生臨床検査体験プログラム」を実施 【連携協定の締結に率先して努めており、計画を上回って実施できる見込み】	2	Ⅳ	Ⅳ	
② 学生や教職員にSDGs（注5）の理念を周知・啓発するとともに、大学ならではの行動計画を策定して社会貢献活動の実践につなげ、活動成果を公表する。 （注5）持続可能な開発目標 （Sustainable Development Goals）	・本学のSDGsに関する取組みについて、HPを通じて公表を行い、学内外への意識啓発を行った。 ・学生及び教職員を対象に、SDGsセミナーを実施 ・教室及びラーニングコモンズの椅子のリフォーム（カバー設置） ・講義や会議資料のペーパーレス化を図った。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
③ 大規模災害や感染症パンデミックにおける緊急支援のほか、県民が抱える様々な課題について、行政、関係団体、NPO法人等と連携してニーズの把握に努め、大学の有する人的・物的資源を活用した幅広い地域貢献活動を実践する。	・コロナ禍における保健所やワクチン接種会場への教員派遣等、緊急支援を実施 ・砥部町の「ストレッチ教室」や「赤ちゃん親子の交流の広場」に体育館等を解放 ・麻生地区福祉活動推進懇談会出席し、砥部町社会福祉協議会職員や地域住民との意見交換を実施 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

項 目	2 教育研究組織				
中期目標	教育研究の進展や社会のニーズに対応し、より効果的、効率的な教育研究活動を行うことができるよう、教育研究審議会の在り方を見直して外部委員の意見を積極的に反映するとともに、学内の教育研究組織を効果的に運用する。				
第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
デジタル化・ICT活用などの教育研究・学修を取り巻く様々な環境変化に対応するため、教育研究審議会の外部委員を積極的に活用し、時代に則した効果的・効率的な教育研究活動を進める。	・教育研究を取り巻く環境変化に対応するため、教育研究審議会に教育機関以外の有識者1名を新たに起用 ・教育機関以外の有識者を含めた3名の外部委員に、テーマをあらかじめ設定して発言を求めるなど、重要事項に関して幅広い意見・提言を求め、効果的・効率的な教育活動の実践に繋がった。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

項 目	3 人事				
中期目標	教職員の業績を適正に評価して、人事・給与に反映することで意欲や能力の向上につなげるとともに、優秀な教職員の確保を図るため、人事制度の弾力的な運用を行う。				
第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
① 教職員の人事考課・業績評価制度を拡充して、公平性・客観性を担保しながら、任用や給与に弾力的に反映することにより、教職員の勤務意欲の向上と能力の高い人材の採用を図る。	・教員業績評価について、教員アンケートや教員業績評価委員会の委員からの意見を反映して改正を実施している。 ・事務職員も含め、特に顕著な功績が認められた者には理事長表彰を行った。 ・教員の採用や昇任にあたっては、教育研究審議会の場において、成績主義に基づき公平性・客観性が担保された適正な選考を行った。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
② プロパー事務職員について、社会人経験者を含めた計画的な採用を進めるとともに、人材育成方針を策定して、研修等により大学事務の専門職としてのスキルアップを図る。	・概ね3年毎に一人を採用しており、上限年齢を45歳に引き上げて試験を実施 ・人材育成方針を策定し、愛媛県や公立大学協会及びSPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）等が実施する研修などへ積極的に参加 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
③ 教職員数について、少子化等の社会構造の変化に則した適正な定員管理に留意するとともに、クロスアポイントメント（注6）等の学外との連携による新たな人材活用制度の導入可能性を検討し、柔軟かつ効率的に大学運営を維持する。 （注6）クロスアポイントメント…教員（研究者）が複数の大学に雇用され、決められた勤務割合に応じて、それぞれの大学で業務を行うもの。給与や社会保険料については、勤務割合に応じて、それぞれの大学が負担する。	・「職員就業規則」を改正するとともに、「クロスアポイントメント制度に関する規程」を策定し、本学にクロスアポイントメントを導入するための基本的な制度を整備 ・欠員や退職教員の後任補充として、年俸制の特命教授や1年更新の特定教員を採用 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

項 目	4 大学運営業務					
中期目標	社会ニーズの変革により多様化、複雑化する大学運営業務を限られた人員で効率的、効果的に執行するとともに、教職員の働き方改革を実践するため、業務プロセスの大胆な見直し、ＩＣＴ・ＡＩ技術の活用、業務担当の専門化・分業化、教職協働などによる業務改革に取り組み、教育及び研究の更なる充実と、働きがいと働きやすさの実現を図る。					
第 3 期中期計画		第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
				自己評価	委員会評価	
① 業務内容が見える化して、無駄な業務の廃止や業務プロセスの簡素化などの見直しを実施し、大学運営業務の効率化を進めるとともに、働き方改革を実現するため指針を策定し、長時間労働の是正を図る。		・働きやすさ（職場環境）の改善と働きがい（達成感）の向上の両立を目指す「働き方改革指針」を策定 ・職員から提案のあった業務の効率化・無駄の排除につながる意見について、実現可能なものから順次導入を図った。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	令和5年度は超過勤務時間を大幅に削減した点は評価できるが、令和6年度以降は担当業務の変更等により増加し、高止まり傾向にある。ストレスチェックでも負担感が課題として示されていることから、費用対効果を踏まえた業務効率化を進め、超過勤務時間の着実な削減に努められたい。
② 大学運営業務のペーパーレス化を推進するとともに、ＩＣＴ・ＡＩ技術を活用した業務の自動化や作業時間の短縮などに関して、費用対効果を勘案しながら、デジタル化について計画的に取り組む。		・「WEB会議システム」や「ＡＩ議事録作成システム」の導入 ・運営戦略会議や教授会等各種会議におけるペーパーレス化を実施 ・財務会計システムの切替や入試事務処理システムの改修など設置者とも適宜協議を行い計画的な業務改善に取り組んでいる。 【計画を順調に実施できる見込みではあるが、更なる業務効率化に向けたDXの推進には小規模大学であるため財源の確保には課題があり、引き続き設置者の支援をおねがいたい。】	1	Ⅲ	Ⅲ	
③ 大学運営業務改革と並行して、教員と事務職員との協働や役割分担などの在り方を見直し、連携を強化するとともに、教員の教育研究活動以外の業務負担を軽減する。		・既存の学内組織のそれぞれで、教員と事務局職員が連携・協働し、事業推進と課題解決へ取り組むべく情報や課題を共有し、効果的な連携を維持 ・事務職員が、各委員会に置いて委員又は事務担当として関与もしており、教職協働を実現している。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
特 記 事 項						備 考
なし						

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	構成する小項目別評価の集計結果	自己評価	委員会評価	Ⅳ又はⅢの構成割合
	Ⅳ：中期計画を上回って実施できる見込み	2	2	100%
	Ⅲ：中期計画を順調に実施できる見込み	12	12	
	Ⅱ：中期計画を十分には実施できない見込み			
	Ⅰ：中期計画を実施していない			

大項目別評価	評価委員会評価	
	5段階評価	コメント
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	A	
・コロナ禍における保健所等への教員派遣や、臨床検査技師会・総合保健協会・愛媛大学との連携協定の締結、協働事業の実施をはじめ、県内高等学校への授業支援や高校生を対象とした体験プログラムの実施、県の委託事業への参画等を通じて、地域社会の保健医療福祉の向上に寄与していることを高く評価する。今後も、関係機関と連携した取組を推進するとともに、その成果を積極的に発信していくことを期待する。 ・令和5年度は超過勤務時間を大幅に削減した点は評価できるが、令和6年度、令和7年度は担当業務の変更等により増加し、高止まり傾向にある。ストレスチェックでも負担感が課題として示されていることから、費用対効果を踏まえた業務効率化を進め、超過勤務時間の着実な削減に努められたい。 ・そのほかについても、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体として順調な進捗状況にあると評価する。		

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

項 目	1 外部資金及び自己収入の確保				
中期目標	教育研究水準の向上に資する競争的研究資金等の獲得や大学基金への寄附の増による外部資金の確保を積極的に進めるとともに、18歳年齢人口の減少を踏まえ入学金等の自己収入減対策に取り組む。				
第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
① 教員の外部研究資金の獲得を支援するため、事務局で各種助成金の公募情報の提供や申請手続等の支援を行い、間接経費を適正に管理・執行するとともに、各教員の獲得状況に応じて、教員業績評価等に反映させる。	・科学研究費補助金の申請説明動画や資料を学内で共有 ・公立大学協会主催の科研費獲得研修会を活用 ・その他の外部団体からの研究助成情報についても都度周知 ・間接経費については、事務局において、財務システムで管理し適正に執行 ・教員業績評価において、外部研究学部資金の獲得状況を評価項目としている。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	
② EPU愛顔基金の確保と活用について、目的型基金制度を検討するなど効果的な基金運営を進めるとともに、関係者への情報発信を強化する。また、経営的視点から、収益性も踏まえた資産の有効活用などにより、自己収入の継続的な確保を図る。	・砥部町ふるさと納税に「医療技術大学への支援」を追加、寄附受入総額の25%を支援金として受入れ ・伊予銀行及び愛媛銀行と遺贈寄附に関する協定を締結 ・H P や開学20周年記念行事でP Rを行うとともに、同窓会誌や大学案内、広報誌において、情報発信に努めた。 ・大学関係者、応援者等からの寄付による「EPU愛顔基金」の増加 【砥部町ふるさと納税や遺贈寄附の協定締結等、基金の確保に努めており、計画を上回って実施できる見込み】	2	Ⅳ	Ⅳ	自己収入の確保に向けた新たな取組を着実に推進した点を高く評価する。今後は、これらの取組を一過性に終わらせないため、寄附者層の拡大やリピーター確保に向けた広報の強化等に努めていただきたい。

項 目	2 予算や資産の効率的、効果的な運用				
中期目標	限られた予算で最大限効果的な大学運営を行うため、教育研究水準の維持向上に配慮しつつ、経費の効率的、効果的な執行と資産の適切な管理運用を徹底する。				
第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
教職員のコスト意識の醸成を図るとともに、大学の管理運営における契約方法及び維持管理経費の見直し等を行い、経費の節減を図る。	・運営費交付金減額、目的積立金の状況及び維持管理費の実績を周知するとともに、ペーパーレス化の推奨等により教職員のコスト意識の醸成を図った。 ・複数年契約の継続、灯油やコピー用紙の単価契約、別館の警備・清掃の一体管理などにより、経費の削減に努めた。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

特 記 事 項	備 考
なし	

第3 財務内容の改善に関する目標	構成する小項目別評価の集計結果	自己評価	委員会評価	Ⅳ又はⅢの構成割合
	Ⅳ：中期計画を上回って実施できる見込み	2	2	100%
	Ⅲ：中期計画を順調に実施できる見込み	2	2	
	Ⅱ：中期計画を十分には実施できない見込み			
	Ⅰ：中期計画を実施していない			

大項目別評価	評価委員会評価	
	5段階評価	コメント
第3 財務内容の改善に関する目標	A	
・教員の外部研究資金の獲得を支援するための取組として、事務局による公募情報の提供に加え、申請説明動画や資料の共有、外部研修の活用により、科学研究費補助金の申請支援を着実に実施している。申請率は令和4年度の74.5%から令和5年度以降80%超へ改善し、令和7年度は88.6%と高水準となっている。採択件数も4年間で108件と目標を大幅に上回っており評価できる。 ・砥部町のふるさと納税における寄附金の使途メニューへ「医療技術大学への支援」を新設するとともに、伊予銀行・愛媛銀行と遺贈寄附に関する協定を締結するなど、自己収入の確保に向けた新たな取組を着実に推進した点を高く評価する。あわせて、基金の獲得に向け、積極的な情報発信に継続して取り組んだことも評価できる。今後は、これらの取組を一過性に終わらせないよう、寄附者層の拡大やリピーター確保に向けた広報の強化等に努めていただきたい。 ・そのほかについても、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体として順調な進捗状況にあると評価する。		

第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

項 目	1 自己点検・評価の実施				
中期目標	大学運営、教育研究活動及び社会貢献等について、定期的に自己点検・評価を実施し、PDCAサイクルを用いて改善・改革に努めるとともに、外部評価機関による評価を受け、学内にフィードバックする。				
第3期中期計画	第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
			自己評価	委員会評価	
① 内部質保証システム（注7）の全学的な基本方針と手続きの明確化を図り、組織的・恒常的なシステム運用を推進する。 大学法人評価や大学認証評価等の外部評価結果を踏まえ、内部質保証システムの適切性を検証する。 （注7） ・内部質保証システム：大学自らが、自らの責任で大学の諸活動についての点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、それを通じて、大学の質を自ら保証することのできる仕組みのこと	・内部質保証に関する方針を策定するとともに、教育活動に関する内部質保証については、教学マネジメント委員会規程及び教学マネジメント指針等にも定めた。 ・令和5年度に受審した大学認証評価の結果は、基準項目が「オールA」の評定結果であり、本学の内部質保証についても、その適切性が認められた。 【計画を順調に実施できる見込み】	2	Ⅲ	Ⅲ	
② 学部、研究科、各委員会等は各々の役割に応じた自己点検評価を定期的実施して、PDCAサイクルにより教育研究及び業務の改善・向上に努めるとともに、その成果を学内外に積極的に公表する。	・内部質保証に関する方針に従い、学部、学科、研究科、専攻科、各委員会等の組織単位で、自己点検・評価を実施し、自己点検評価委員会で全体を集約後、内部質保証の最高責任組織である運営戦略会議から課題の指摘を受け、改善に取り組むというPDCAサイクルにより改善・向上を図った。 ・取組状況について、教授会で報告し学内で共有している。 【計画を順調に実施できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ	

項 目	2 情報公開及び情報発信						
中期目標	公立大学法人として、県民に対し、法人の組織運営や大学の活動状況、外部評価の結果等について積極的に情報を公開し、大学に対する理解度、信頼度の向上に努めるとともに、大学の特色ある教育研究活動や社会貢献等の取組を広くアピールするため、積極的な情報発信を行う。						
第3期中期計画		第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み		ウェイト	達成状況		評価委員会コメント
					自己評価	委員会評価	
① 大学の特徴ある教育研究活動や社会貢献等の取組み等について、マスコミへの情報提供、ホームページ、広報誌等を通じて積極的に情報を発信し、大学への理解促進とイメージアップを図る。		・ 県政広報番組「ひめ推し」や大学取材等に対応し、本学の魅力や特性をマスコミを通じて積極的に情報発信した。 ・ H Pや広報誌を通じて、教員の教育研究活動や受賞情報、社会貢献活動等の最新情報をタイムリーに発信した。 【計画を順調に実施できる見込み】		1	Ⅲ	Ⅲ	
② 大学ホームページのコンテンツの充実やSNS等を活用した新たな情報発信方策について検討し、学生の確保に向けて広報活動を戦略的に展開する。		・ インスタグラムを開設し、自然に囲まれた教育環境やイベントの様子、学食のランチ、スイーツなど本学の魅力を発信 ・ 高校生を対象に大学での学びを体験できる夢ナビ講義動画の掲載数を増加する等H Pのコンテンツの充実を図った。 【計画を順調に実施できる見込み】		1	Ⅲ	Ⅲ	

特 記 事 項	備 考
なし	

第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	構成する小項目別評価の集計結果	自己評価	委員会評価	Ⅳ又はⅢの構成割合
	Ⅳ：中期計画を上回って実施できる見込み			100%
	Ⅲ：中期計画を順調に実施できる見込み	5	5	
	Ⅱ：中期計画を十分には実施できない見込み			
	Ⅰ：中期計画を実施していない			

大項目別評価	評価委員会評価	
	5段階評価	コメント
第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	A	
・令和4年度に内部質保証に関する方針を定め、内部質保証のための全学的な方針及び手続きを明確化し、教学マネジメント関連規程等にも位置付けて全学に周知した。以後、学部・研究科・各委員会等の組織単位で毎年度、自己点検・評価を行い、PDCAサイクルによる運用を継続している。また、大学認証評価等の外部評価においても内部質保証の適切性が認められており、評価できる。 ・ホームページは認証評価結果を踏まえ、サイトマップ整理等を着実に進め、掲載情報の更新確認体制も整備した。また、インスタグラムの開設やテレビ等のマスコミを通じた発信、高校生向けの情報提供サイト「夢ナビ」での発信など、多様な媒体での情報発信を展開した。さらに、進学情報サイト「マナビジョンWEB」へ出稿し、資料請求数やオープンキャンパス参加者数の増加につなげた点も評価できる。今後は、ターゲットに応じた発信内容や媒体の選定をさらに充実・最適化し、効果検証を行いながら、より効果的な情報発信に努められたい。 ・そのほかについても、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体として順調な進捗状況にあると評価する。		

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

項 目	1 施設設備の整備、活用等				
中期目標	良好で安全な教育研究環境を保持するため、施設整備を適切に維持管理し、長寿命化計画に基づく計画的な整備を行う。				
第3期中期計画		第3期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	進行状況 自己評価 委員会評価	評価委員会コメント
① 老朽化した機能を良好に維持するため、長寿命化計画に基づく計画的な施設設備の整備・修繕を行う。		・長寿命化計画に基づき、運営費交付金特別分等を財源として、計画的な施設設備の整備・修繕を実施 【計画を順調に実施できる見込みであるが、計画的な整備には設置者による財源措置が不可欠であり、引き続き連携した取組みが必要である。】	1	Ⅲ	Ⅲ
② 施設設備の整備について、安全維持や障がい者利用の観点のほか、教育研究機能、地域貢献活動における必要性を十分に検討し優先順位を見極めたうえで計画的に実施する。		・段差解消や手摺設置等のバリアフリー措置を実施 ・教育研究機能の強化のため、学内の要望を踏まえた機器・設備の更新や新規導入を実施 【計画を順調に実施できる見込みであるが、計画的な整備には設置者による財源措置が不可欠であり、引き続き連携した取組みが必要である。】	1	Ⅲ	Ⅲ

項 目	2 危機管理・人権				
中期目標	近年の大規模災害や世界的な感染症などの未曾有の事態を教訓に危機管理体制の拡充を図るとともに、日頃の安全衛生管理等に努め、安全、安心な教育研究環境を確保する。また、人権の遵守やハラスメント防止に関する社会的な意識改革を踏まえた学内啓発に努める。				
第2期中期計画		第2期中期計画中的実績 及び計画の達成見込み	ウェイト	達成状況 自己評価 委員会評価	評価委員会コメント
① 新興・再興感染症対策に対応した安全衛生管理・感染防止体制を継続するとともに、大規模災害等を想定した防災設備・備品の計画的整備や訓練の実施等、危機管理体制の拡充を図る。また、IT環境の変化に対応した情報管理を徹底する。		・新型コロナウイルス感染症対に対する基本方針を適宜改正 ・大規模災害に備えたBCPを策定 ・「災害対策マニュアル」の見直しや「学生用避難所運営マニュアル」の策定、「災害対策本部設置訓練」を実施 ・防災備品や物資の整備・備蓄を実施 ・教職員に対し情報セキュリティポリシーを周知徹底するほか、リテラシー向上のためのセルフラーニング研修を実施 ・「情報セキュリティ内部監査実施要領」を定め、内部監査を実施 ・公務用パソコンの運用に伴い、使用のガイドラインを作成、周知 ・学生に対しては、情報セキュリティ教育を実施。「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定を受けた（R7）。 【計画を順調に達成できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ
② 各種ハラスメント防止や人権意識向上のための体制整備を進めるとともに、学生及び教職員を対象とした意識啓発活動や研修を継続的に実施する。		・事例等を頻用したハラスメント防止研修教材を作成し、全教職員に研修を実施 ・学生相談室に学外カウンセラーを配置し、随時相談を受付 ・学生・教職員対象のアンケート調査を実施 【計画を順調に達成できる見込み】	1	Ⅲ	Ⅲ

特 記 事 項	備 考
なし	

第 5 その他業務運営に関する重要目標	構成する小項目別評価の集計結果	自己 評価	委員会 評価	Ⅳ又はⅢの 構成割合
	Ⅳ：中期計画を上回って実施できる見込み			100%
	Ⅲ：中期計画を順調に実施できる見込み	4	4	
	Ⅱ：中期計画を十分には実施できない見込み			
	Ⅰ：中期計画を実施していない			

大項目別評価	評価委員会評価	
	5段階評価	コメント
第 5 その他業務運営に関する重要目標	A	
・長寿命化計画に基づき、屋根防水・外壁補修・空調等の修繕を計画的に実施し、教育研究環境の維持管理を適正に実施されている。ガス漏れ警報設備更新や消火栓ホース取替など安全面の対応や、バリアフリー化への対応も着実に実施されている。今後も、中長期的な見通しのもと、優先順位を見極め計画的な整備・更新に努めていただきたい。 ・そのほかについても、中期計画を順調に実施できる見込みであり、全体として順調な進捗状況にあると評価する。		

参考

愛媛県公立大学法人評価委員会について

1. 設置根拠

地方独立行政法人法第11条に基づき、設立団体の長の附属機関として設置される。

2. 業務内容

- ① 各事業年度及び中期目標期間並びに中期目標期間終了時見込期間における法人の業務実績を評価し、また、業務運営の改善その他の勧告をすること
- ② 中期目標の策定や中期計画の認可等における知事からの意見聴取に対し、意見を述べること
- ③ 法人役員の報酬等の支給基準が一般の社会情勢に適合したものかどうかについて、知事に意見を申し出ることなど

3. 組織等の概要

愛媛県公立大学法人評価委員会条例（平成21年10月16日公布）で定める。

第2条 組織	委員5人以内
第3条 委員	経営又は教育研究に関する学識経験のある者のうちから、知事が任命する。任期は2年
第4条 臨時委員	特定の事項を調査審議するため、臨時委員を置くことができる。任期は調査審議が終了するまで。
第5条 委員長	委員会に委員の互選による委員長を置く。
第6条 会議	委員会の会議は、委員長が召集し、議長となる。

【委員】任期：令和7年11月12日～令和9年11月11日（※：令和7年11月17日～令和9年11月16日）

三好 賢治	愛媛県商工会議所連合会会頭	※
久保 幸	愛媛県看護協会会長	
佐伯 由香	人間環境大学教授	委員長
村上 博	愛媛県医師会会長	
山邊 彰三	公認会計士	

（令和8年8月現在）